

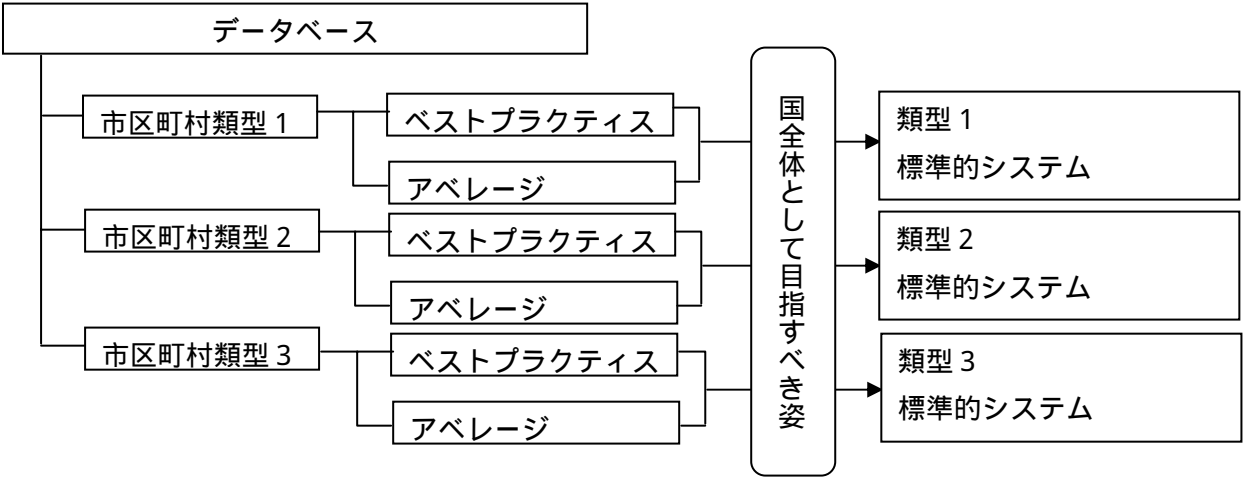
図表 4 - 7 ミクロ指標案

評価軸		指標（例）	把握 ¹⁾	必要追加項目
イン プ ット 指 標	コスト	収集コスト	×	廃棄物会計基準による算出 (収集・処理トン当たり)
		中間処理コスト	×	
		資源化コスト	×	
		最終処分コスト	×	
アウ ト プ ット 指 標	収 集 効 率 性	直営・委託別収集 1t 当たりコスト・ 1 人当たりコスト	×	
	中 間 処 理 効率	施設別、処理量 1t 当たりコスト・1 人当たりコスト	×	
	資 源 化 効 率	品目別資源回収量 1t 当たりコス ト・1 人当たりコスト	×	ルート情報を追加
	最 終 処 分 効率	最終処分量 1t 当たりコスト・1 人当 たりコスト		
中 間 ア ウ ト カ ム 指 標	排出量	細組成毎 1 人 1 日当たり排出量	×	ごみ細組成調査が必要
		資源化品目別回収率	×	ごみ細組成調査と資源回収量により算出可 能
	再生利用	生活系 1 人 1 日当たり再生利用量	×	生活系・事業系内訳が必要
		事業系 1 人 1 日当たり再生利用量	×	生活系・事業系内訳が必要
		マテリアルリサイクル歩留まり	×	資源回収量÷収集量
		ごみ 1t あたり発電電力量	×	
		ごみ 1t あたり熱回収量	×	
	最終処分	最終処分形態別 1 人 1 日当たり最終 処分量(直接埋立・焼却残渣・その他 処理残渣) 等	○	
最 終 ア ウ ト カ ム 指 標	環境負荷	プロセス毎の処理 t 当たりの環境負 荷、コスト当たりの環境負荷	×	

2) データベースを活用した標準的な廃棄物処理システムの提示（第二段階）

国や都道府県は各市町村から収集したデータをもとにデータベースを構築し、データベースを解析することによって地域特性により類型化された市区町村毎のベストプラクティスや平均的な市区町村を整理する。

これら市区町村データを基に、国全体として目指すべき姿などを勘案しつつ、市区町村が自地域の廃棄物マネジメントを改善する上で一つの目標となる標準的な分別収集区分、処理・資源化方法を提示する。



図表 4 - 8 標準的な分別収集区分、処理・資源化システムの提示（案）

3) マスタープラン（一般廃棄物処理基本計画）作成（第三段階）

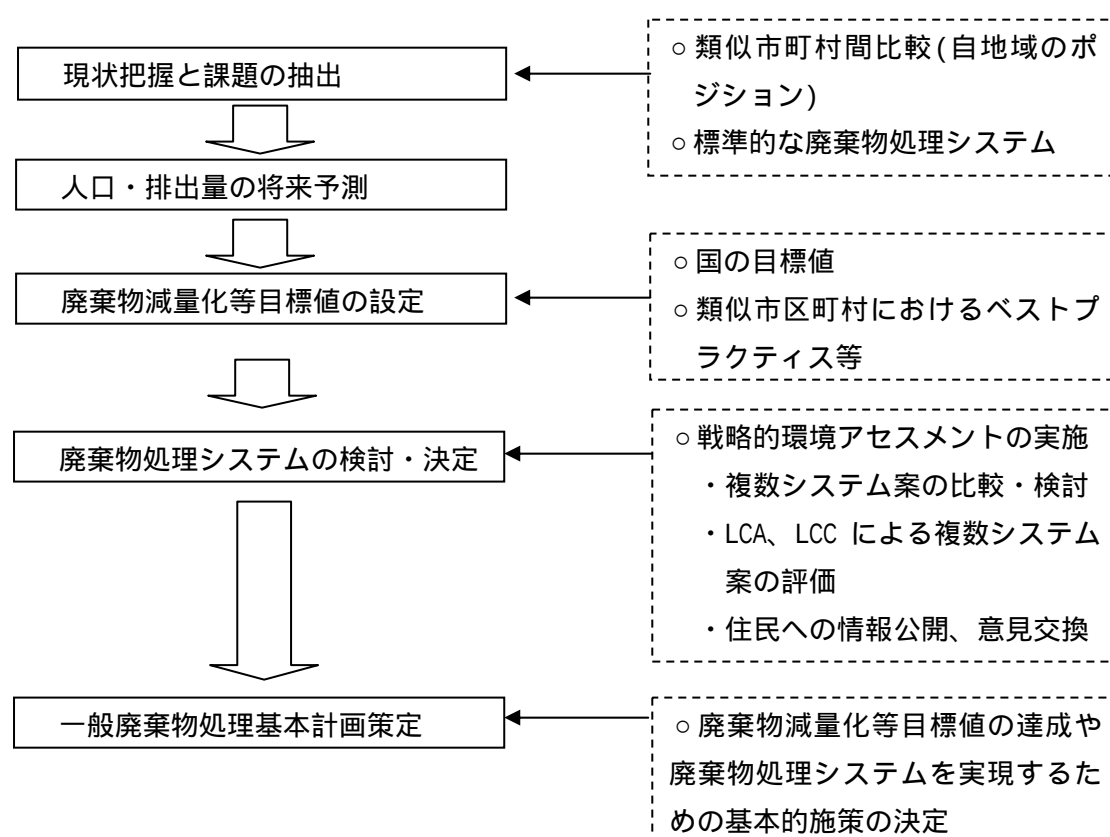
市区町村は、ベンチマーキングデータベースシステムによる類似市区町村間比較や国が示す標準的なシステムを参考としつつ、自地域の廃棄物マネジメントの改善を実施していくこととなる。

市区町村が廃棄物処理システムの変更を行う際には、何らかの計画で変更を位置付けることが一般的である。市区町村の廃棄物処理関係の計画については、一般廃棄物処理計画(基本計画・実施計画)、循環型社会形成推進地域計画、容器包装分別収集計画などがあるが、市町村の廃棄物処理に関する計画で最上位となる一般廃棄物処理基本計画において検討を行うことが最も望ましい。

一般廃棄物処理基本計画策定についての手順及び概要を図表4-9に示す。

4) 施策の点検・見直し

廃棄物減量化等目標値の達成や廃棄物処理システムの構築にあたっては、基本計画に基づき施策を展開していくこととなるが、施策の点検・見直しを行い継続的な改善を行うシステムを構築することが必要である。



図表 4 - 9 一般廃棄物処理基本計画における検討事項

